

フラワーレメディについて (5)

バッチフラワーレメディを用いた治療は、心の問題が如何に体の異常を引き起こすか、また体の異常、つまり病気や症状がそれによる心の問題を起こしているかを明らかにしてきました。治りにくい病気の背景にある心の問題を認識し、その改善に自分自身が取り組もうとするとき、バッチフラワーレメディが有効に働いてくれます。最近、そのバッチフラワーレメディを外用することについて研究し素晴らしい発見をした、ドイツの自然療法士でありヒーラーであるディートマー・クレーマー氏の療法を学んで追試をしています。

彼はある時バッチフラワーレメディをうっかり患者さんの体の上に落してしまいましたが、その時に患者さんの病的オーラが消えてしまったのだそうです。それ以後彼は皮膚のどの部分にどのフラワーレメディが対応しているかを調べていったのです。詳しく知りたい方は著書が出ていますのでお読みください。

どの様に有効なのでしょう。ある60歳代男性の方は永年の背中中の痛みがあり、今まで痛み止めやシップ等いろいろ試みたが効果が無いのであきらめていました。ちょうどその場所に有効なフラワーレメディを塗布してみたら、永年の痛みが無くなった、と驚いていました。

黒子が急に大きくなってガン化の疑いのあった50歳代女性の方は、その場所のフラワーレメディを塗布することによって小さくなり薄くなって、ガンの疑いは晴れていきました。

いつも決まった眼瞼の場所に湿疹が出て来る方も、その場所のフラワーレメディの意味に気づき、内服と外用により改善し、心の問題にも改めて向かい合う事ができたと言われます。様々な治療法も効果が無く絶望的になっている方には、ゴース（はりえにしだ）を、ゴースの場所に塗布すると改善することがあるといいます。塗布することで思わしい結果が出ない場合は、湿布をすることが有効なこともあるようです。

また、皮膚（皮下）には何の症状も無くても、ご自分に適合するフラワーレメディをその場所に塗布することで、これから出て来る症状を前もって予防することもできるようです。

皮膚は人間の発生から見ても、最も古い組織であります。単に外界から体を守っているだけではないのです。第三の脳とも言われているのですから。脳が場所によって働きが異なっているように、皮膚も場所によって司る働きが違っても当然ではないかと思えます。

私たちの医療は、Oーリングテストを一つの診断のツールとして利用していますので、メンタルと皮膚を結び付けて、診ていきたいと思っています。ご希望の方は、その旨お伝えください。

鈴木 富美